

継続事業評価調書

【都市公園事業】

まちづくり局公園緑地課

投資事業評価調書（継続：再評価）

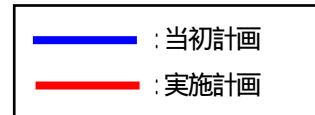
部課室名	まちづくり局公園緑地課	記入責任者職氏名 (担当者氏名)	公園緑地課長 橋 俊光 (課長補佐兼技術指導係長 宮崎 貴久)		内線	4475 (4491)	
事業種目	都市公園事業	事業名		事業区間		総事業費	61億円
		あわじ石の寝屋緑地		淡路市岩屋		内用地補償費	57億円
所在地		事業採択年度	着工年度	完成予定 年 度	進捗率 (内用補進捗)	約 58% (約 60%)	
淡路市岩屋		H11	H11	H26	残事業費	25億円	
事業の目的			事業内容				
本緑地は明石海峡を望む淡路島北端の丘陵地に位置し、緑豊かで良好な自然環境を有する地域である。明石海峡大橋及び淡路縦貫道の開通に伴い、大橋周辺地域における無秩序な開発を抑制し、緑地の保全と活用を図り、大阪湾を取り巻く緑のネットワークの一環を担う緑地とする。			面積 = 75.4ha 拠点施設 = 1箇所、展望施設 = 1箇所 園路 = 4,000m 【負担割合】施設費 = 国: 1/2, 県: 1/2 用地費 = 国: 1/3, 県: 2/3				
事業を取り巻く 社会経済情勢等 の変化	自然環境や自然生態系保全への関心の高まり、自然との触れあいや環境共生の大切さが再認識されていることから、緑地環境を保全しながら公園整備することが重要になってきている。また、ワークショップ方式による公園整備や、公園ボランティアなど、県民の参画と協働による公園づくりへの関心が高まっている。						
進捗状況	平成 11 年度に事業着手し、平成 14 年度から用地買収に着手し、平成 18 年度より施設整備を行っている。 平成 20 年度末での進捗率は 58% であり、内訳は用地買収約 60%、本工事約 41% である。						
評価視点	評価結果の説明						
(1)必要性	本緑地は、明石海峡や対岸の神戸・明石の街並みを見渡す淡路島北端部の山林に位置し良好な自然環境を有するとともに、対岸の地域や明石海峡大橋からも「淡路公園島」のエントランス部にあたることから、緑地として整備し緑豊かな景観を保全する必要がある。 ・自然環境を守るなど、地域の環境や地域振興に役立つ公園 緑地として保全し、自然環境を最大限に活かした管理運営することにより、降雨による土砂災害の防止等に資する。 学校などとの連携による自然環境学習・教育プログラムの開発・提供など、「環境学習・教育」の場となる。 また、自然や歴史的資源（石の寝屋古墳）から、各種プログラムを作成し、世代間の交流、都市と地方の交流、緑化活動など「まちづくりの拠点」として、地域づくりに貢献できる。 さらに、淡路島公園や国営明石海峡公園などの近接公園と共同でイベントやウォークラリー等を開催することにより、地域の魅力向上とともに淡路地区の地域振興に寄与できる。 ・県民と共に育てる魅力ある公園 住民の参画と協働による「手作り感」のある緑地施設、「使いながらつくる」緑地の整備を図る。本緑地で整備する緑地内園路約 4km は、自然を楽しむウォーキングコースとして設定され、訪れる人々の健康増進や、レクリエーション空間として提供される。						
(2)有効性・効率性	地域の参画により様々なプログラムを企画実施し、その活動の定着により、地域との交流や県民の参画と協働の場として有効となる。 自然環境や自然生態系、環境問題に関する学習や情報提供などの積極的な活用が図れる。 費用便益比(B/C) = 1.56						
(3)環境適合性	環境影響評価を実施し、柵及び看板により歩行路を明示するなど環境保全への対策を講じることにより、環境保全目標を満足できることを確認している。 本緑地には、多数の貴重な動植物が息していることから、自然環境や自然生態系の保全に重点を置いた整備を行う。 また、現況地形の改変を極力抑え、切土・盛土による土砂の搬入・搬出を極力少なくすることにより、工事用進入路となる市道・県道沿い住居への影響を最小限とする。						
(4)優先性	本緑地で確認されている貴重種（アカマツ群落、サイコクヌカボ等）が、マダケ、モウソウチクにその存在を脅かされていることが確認されていることから、緑地整備を通じて里山を保全することが急務である。						
再評価の結果	継続	上記理由により、事業継続が妥当である。					

事業進捗状況概要図（継続：再評価）

事業名	都市公園事業	路線・河川名	あわじ石の寝屋緑地
	事業進捗状況・予定		整備効果
全体	H11～26年度【事業費＝61億円】 公園面積：75.4ha 主要施設：拠点施設＝1箇所 展望施設＝1箇所 園路 ＝4,000m 用地取得：75.4ha		
過去10年間（実績）	H11～20年度【事業費＝36億円】 事業進捗率：約58% 平成14年度より用地取得開始、平成20年度末までに用地75.4haのうち36.9ha取得（用地進捗率：約60%） 平成18年度よりエントランス及び駐車場の工事着手（工事進捗率：約41%）		
今後6年間（予定）	H21～26年度【事業費＝25億円】 平成24年度中の用地取得完了を目指すとともに、自然環境を重視した園路等の最小限の基盤整備と、住民の参画と協働による「手作り感」のある緑地を構築する。		
			環境・貴重種の保全 都市と地域の交流 県民参画と協働の推進 健康増進

当初計画及び実施工程

	H11	H12	H13	H14	H15	H16	H17	H18	H19	H20	H21	H22	H23	H24	H25	H26	
調査設計	■																
用地補償				■													
園路広場工								■				■					
施設整備工											■					■	



公園事業の費用便益比

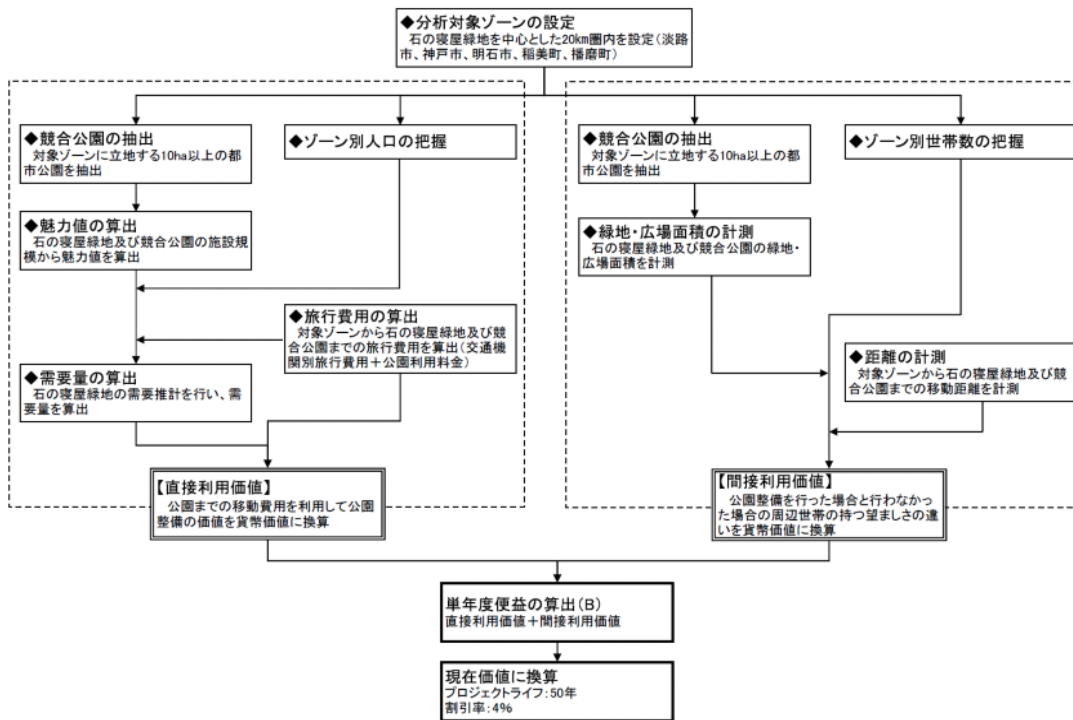
(1) 費用便益比の考え方

- 1) 便益 = 公園事業を実施することによって生じる、直接利用価値及び間接利用価値を現在価値化
- 2) 費用 = 「建設費 + 維持管理費」を現在価値化

(2) 算定に用いた資料

改訂第2版 大規模公園費用対効果分析手法マニュアル 国土交通省都市・地域整備局 平成19年6月

(3) 便益の算出

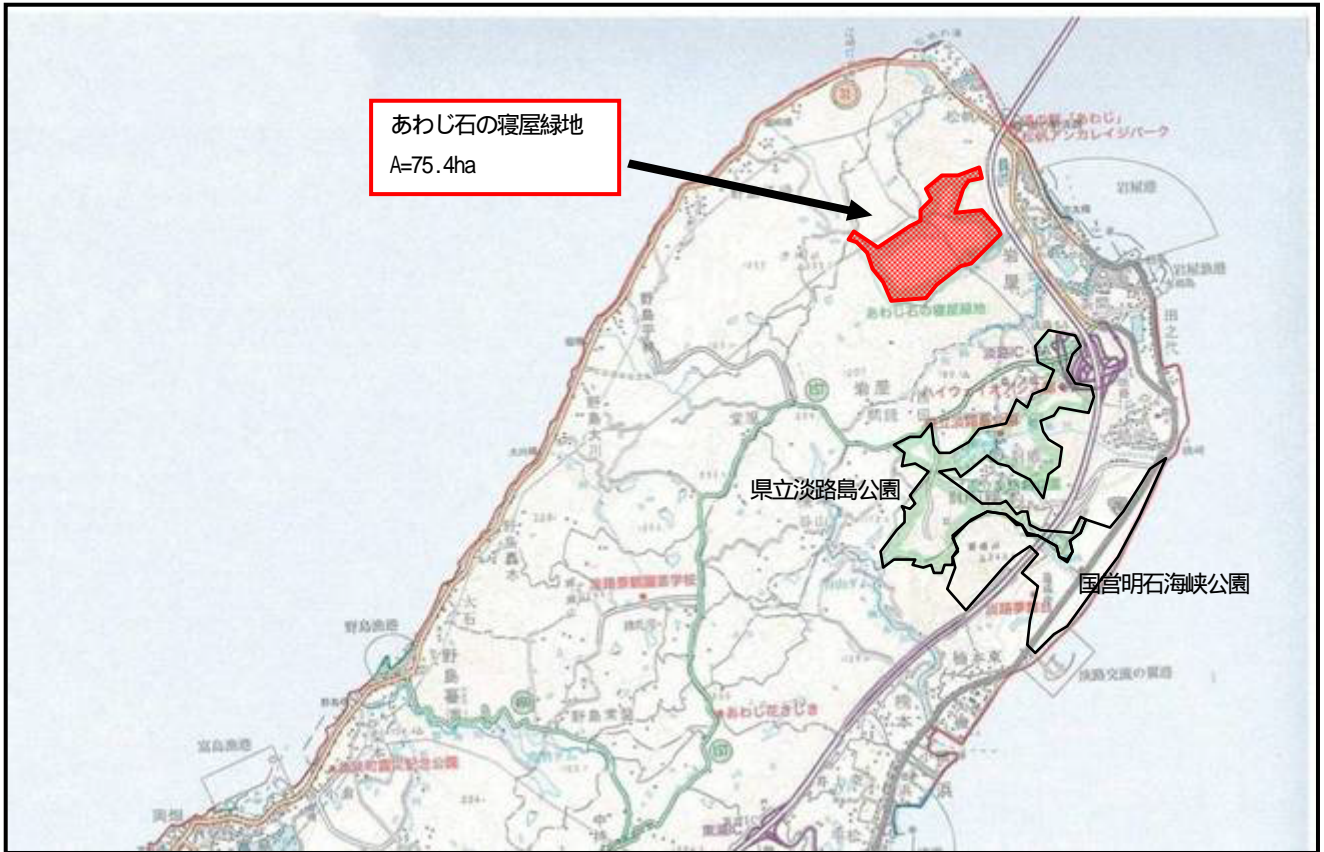


(4) 費用便益比 (B / C)

		金額 (百万円)	備考
便益 (B)	直接利用価値	779	
	間接利用価値	13,116	
	合計	13,895	
費用 (C)	事業費	8,380	用地費 + 整備費
	維持管理費	536	
	合計	8,916	
費用便益比 (B / C)		1.56	

金額：現在価値化したもの

あわじ石の寝屋緑地 位置図



あわじ石の寝屋緑地 航空写真



あわじ石の寝屋緑地計画平面図

『あわじ石の寝屋緑地を守り、学ぶ森』

●石の寝屋緑地の多様な生物
鳥類・・・35種（うち猛禽類8種類）
両生類・・・8種
（イサ、コノヲシ 18、ツレダ 87等）
ほ乳類・・・8種
は虫類・・・8種
昆虫類・・・488種
（トナ 34種、サメ 34種、バツ 31種、37ト 等甲虫類 125種）
水生生物

●展望施設
展望台による眺望景観の創出。



●石の寝屋古墳とアカマツ群落
石の寝屋緑地の由来である石の寝屋古墳と、石の寝屋緑地を代表する自然林であるアカマツ群落を園路や案内板等により関連付け、利用促進に資する計画とする。



●古墳ほとりのアカマツの道

●ため池の湿性池
ため池周辺の湿性池等では貴重な動物種がみられる。
○この付近で見られる貴重種
植物：ササユリ、ササユリ
動物：イサ、コノヲシ 18、ツレダ



サイコクスカボ



イモリ

ニホンアカガエル

●自然再生実験観察の谷
休耕田等の地形を活かした自然環境再生の実験・観察の谷地。



展望施設

●園路（歩行者）

●園路（歩行者）

●園路（歩行者）

●園路（歩行者）

●園路（歩行者）

●園路（歩行者）

●園路（歩行者）

●園路（歩行者）

●園路（歩行者）

●園路（歩行者）

●園路（歩行者）

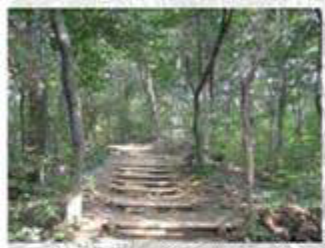
●園路（歩行者）

●園路（歩行者）

●園路（歩行者）

●園路（歩行者）

●尾根沿いの樹林散策ルート
アカマツ・モチツツジ群集やコナラ・アベマキ群集などの自然度の高い樹林地を散策ルートとして整備する。
樹林では37トに代表される甲虫類が見られる。



●尾根沿いの樹林散策ルート

●凡 例

- 園路（歩行者）
- 遊歩道
- 貴重種のみみられる主なポイント
- 公園区域

●現存種

- コナラ・アベマキ群集
- ワシバ・クサキ群集
- アカマツ・モチツツジ群集
- ササユリ・ササユリ群集

●区画間の餌場
区画間の餌場となるエリア。緑地内ではツグミ、イナズマ、オオタカ、ツユ、ハイタカ、ノスリ、サンバ、ハヤブサの猛禽類が確認されている。
○この付近で見られる貴重種
植物：ハンゲショウ
動物：アマガエル



ノスリ、オオタカ、サンバ

●茂谷池周辺エリア
茂谷池とそこに流れ込む細流などの水域環境があり、ハシロコ、ハシロコを代表とする水域に依存するトンボ類やカメ類、カエルなどが多く見られる。
○この付近で見られる貴重種
植物：ハンゲショウ
動物：コノヲシ 18、ハシロコ



ハネドリエゾトンボ

ハンゲショウ

●エントランス
溪路地域の風土景観を継承した中とりのあるエントランス形成を図る。

●大型車輦駐車場
顕態池機能を併せ持った駐車場整備を図る。

●一般車輦駐車場
顕態池機能を併せ持った駐車場整備を図る。

●拠点施設(休憩所、作業場、トイレ)
石の寝屋緑地の保全、研究、学習を行うための拠点づくり。事務機能、休息、維持管理活動、講座、情報提供等に供する集約した拠点施設として整備する。



あわじ石の寝屋緑地 橋上からの景観



あわじ石の寝屋緑地 展望台付近からの眺望

